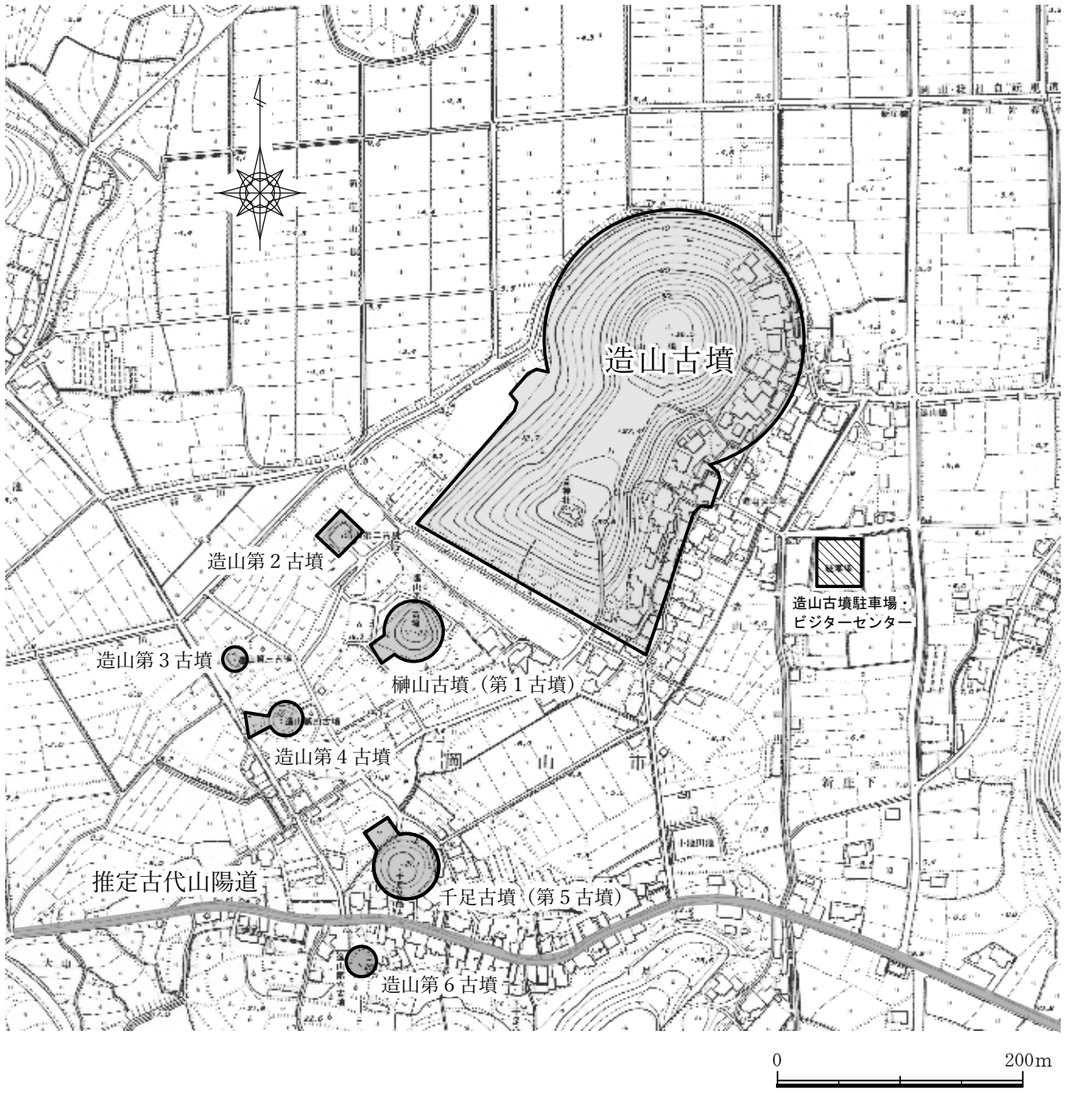
造山古墳発掘調査現場公開資料

岡 山 市 教 育 委 員 会
日　時：令和５年 12 月 17 日（日）
場　所:岡山市北区新庄下（発掘現場）

○はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳の範囲確認調査を 11 月上旬より進めており、この度、確認された遺構を一般に公開するはこびとなりました。今回の発掘調査は昨年度に引き続き、後円部墳頂部を中心に城郭遺構の確認と古墳本体の残存状況の確認を目的として行いました。結果､城郭遺構として土塁が、古墳に伴う遺構として墳丘斜面の葺石が出土しております。



○造山古墳の概要

造山古墳は全国で４番目の規模を誇る前方後円墳で、５世紀前半の築造が考えられます。墳長は 350 m、三段築成でくびれ部には造り出しが付属します。主たる埋葬施設や副葬品は不明ですが、前方部の頂上には阿蘇溶結凝灰岩製の石棺が存在しています。これまでの調査で、斜面にかかる葺石やテラスからは埴輪列などがみつかっています。また、造山古墳の周辺には現在６基の古墳が分布しており、その中でも榊山古墳の出土品や千足古墳の石室からは古墳時代中期における列島内外の地域との交流の活発さがうかがえます。

築造後は備中高松城水攻めの際に城郭として使用され、現在でも土塁や曲輪、竪堀などの遺構が確認できます。

○調査成果について

今年度の調査は造山古墳の将来的な整備に向けて､後円部墳頂部にＬ字形の調査区を設定しています。昨年度の調査に引き続き、備中高松城水攻めの際に古墳をどのように利用したのか、それに伴って古墳はどう改変されたのかなど、複合的な遺構の実態を把握する目的で調査を行っています。

●土塁

調査区のなかでも南側で確認できた土塁は、墳丘を削平し、その土を再利用して築かれています。土塁の盛り土の中には古墳の葺石を転用した石が埋め込まれています。南側の土塁は昨年度調査した東側の土塁と同じ構造で築かれていることが分かりました。

●中心付近

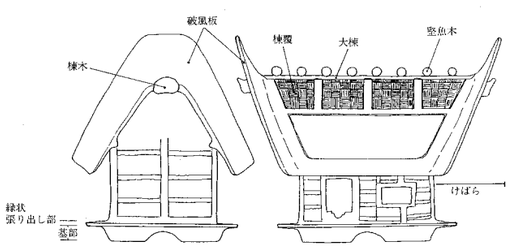
後円部中心付近では、古墳築造以降に掘られたとみられる柱穴と土壙が複数みつかりました。昨年度の調査の結果や、斜面部の土層の関係から、墳頂面の中心部分は後世に表面を削平され、造成されていることがわかりました。

●斜面部

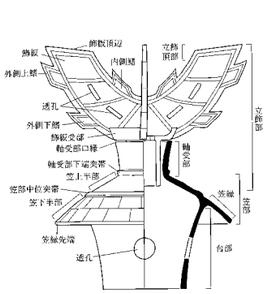
斜面部では、古墳に伴う葺石を検出しました。葺石には 40cm 程度の花崗岩や流紋岩が用いられています。昨年度調査した後円部北東側の葺石と比較すると、今回の調査区で検出した葺石はサイズが少し大きく、花崗岩が流紋岩よりも多いなどといった違いがみられます。また、葺石の上には土が厚く堆積しており、堆積土中からは埴輪片が多く出土しました。後世に古墳を拡張するために墳頂部の土が寄せられた結果と考えられます。

○出土遺物について

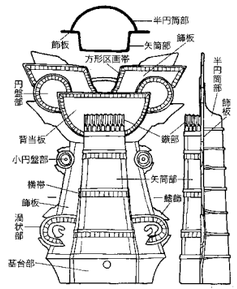
今年度の調査では、円筒・家形・蓋形・靫形埴輪片と後世の土師器が出土しました。形象埴輪は多くが中心部付近で出土していますが、土塁の盛土内からも出土しており、土塁の盛土に中心部付近の土と埴輪をまとめて転用したと考えられます。



家形埴輪



蓋形埴輪



靫形埴輪

図出典　靫形埴輪：和田一之輔 2022「靫形埴輪」『埴輪の分類と編年』埴輪検討会
蓋形埴輪：金澤　雄太 2022「蓋形埴輪」『埴輪の分類と編年』埴輪検討会

N
R4 T1
R4 T2
R4 T3
R５調査区
0
50m